

# 環境表示ガイドラインの改定概要

- 欧州では見せかけのグリーン対応である**グリーンウォッシュ**に対する目が厳しくなっており、EUでは**グリーン訴求指令案**が2023年3月に公表されている。
- 企業が萎縮せず、かつ、消費者に対し適切な環境表示を促進する観点から、環境配慮型製品の流通の妨げとならないように、**環境情報提供のあり方について、改めて整理する。**
- **環境表示のあり方**について整理した「**環境表示ガイドライン**」（2013年3月改定）について、事業者等が自己の責任で環境表示を行う際に注意すべき点についてアップデートを行った。**（R8年3月31日公表）**

## 環境表示ガイドラインの概要

環境表示を行う事業者および事業者団体を対象に、**自己宣言による適切な環境表示のあり方**について、各事業者等の自主性を尊重することを原則としつつ、国際規格であるISO/JIS Q 14021規格へ準拠した環境表示を行うことを求めている。

### 5つの基本項目

↑ 重要な項目を抽出

**基本的な考え方：**  
環境表示に関する国際規格  
**（ISO/JIS Q 14021 自己宣言による環境主張）**に準拠

### 推奨事項

【別冊】参考情報  
国内外の環境表示に係る規制、ガイドライン等

最初に確認していただきたい事項を**イラスト**を用いてわかりやすく説明

用語の使用条件、説明文の要求事項等の詳細を解説

### ■ 対象

景品表示法が規定する「事業者が製品やサービスを購入してもらうために、その内容や取引条件等について、消費者に知らせる広告や表示全般」に加え、商品又は役務の取引に直接的に関係のない環境表示（事業活動、イメージ広告、企業姿勢等）も適用範囲に含む

### ■ 5つの基本項目

- ① **あいまいな表現や環境主張は行わないこと**
- ② 環境主張の内容に**説明文を付けること**
- ③ 製品の**ライフサイクル全体**を考慮すること
- ④ 環境主張の検証に**必要なデータ及び評価方法が提供可能で、情報にアクセスが可能**であること
- ⑤ 製品または工程における**比較主張はLCA評価、数値等**により適切になされていること

# (参考) 環境表示ガイドライン 5つの基本項目

■ 環境表示ガイドラインでは、5つの基本的項目を設定しているが、改定案では直感的に内容を把握するためイラストでの掲載を行った。

## ① あいまいな表現や環境主張は行わないこと

✗ 単独で使用できない表現

環境に安全  
環境にやさしい  
地球にやさしい  
無公害  
グリーン  
自然にやさしい  
オゾンにやさしい  
持続可能  
〇〇を含まない など



○ 望ましい表現例

製品本体に  
再生プラスチック70%使用

年間消費電力量を約5%削減  
※当社従来品▲▲と比較

カーボンフットプリント

XX kg-CO2e

牛乳1Lあたり  
算定対象は 原材料調達～廃棄・リサイクル ▼算定報告書はこちら



## ② 環境主張の内容に説明文を付けること

○×社はプラスチック削減に取り組んでいます



説明文を付ける↓

比較可能で、比較対象が明確

主張部分が明確

従来の同製品よりもボトル(キャップ、ラベル除く)のプラスチック重量を5g減らし、再生材料を70%以上配合しました

製品又は包装中の質量比  
\*変動する場合は「以上」として可

【合理的な根拠(例)】

試験成績書  
サプライヤー証明  
(原料証明書、納品書など)  
学術文献

## ④ 環境主張の検証に必要なデータ及び評価方法が提供可能で、情報にアクセスが可能であること

消費者等が、環境主張を裏付けるデータや評価方法に、容易にアクセスできることが重要です。



業界初!  
包装の約10%にバイオマス原料を使用



2025年10月1日現在国内で販売されている豆腐において、当社調査による。

バイオマス度は14C法によるバイオベース炭素含有率を測定

## ③ 製品のライフサイクル全体を考慮すること

主張しようとする環境改善が、重大なトレードオフをもたらさないか確認することが望ましいです。  
※これは必ずしもライフサイクルアセスメントを実施するものであるという意味ではない。

例) バイオマスプラスチックの使用とトレードオフ

主張しようとする環境改善



植物資源  
(化石資源の代替)

バイオマス  
プラスチック

焼却  
(カーボンニュートラル)

確認を行う

トレードオフ



食糧との競合



無理な土地改変

## ⑤ 製品又は工程における比較主張はLCA評価、数値等により適切になされていること

百分率(%)が絶対値で比較し、製品の改善と包装の改善は別個に主張します。



プラスチック使用量を減らしました  
(削減量: 本体10g、包装5g)  
※当社従来品▲▲と比較



カーボンフットプリントを前身機より約25%削減しました

カーボンフットプリント  
XX kg-CO2e  
1製品あたり  
算定対象は 原材料調達～廃棄・リサイクル ▼算定報告書はこちら